

新入社員のみなさん! 入社おめでとうございます!

初めての仕事や職場に対する不安や悩みはありませんか?

私たちJR東日本労働組合(東日本ユニオン)に気軽に相談してください!



東日本ユニオンで私たちとともに働きやすい職場を創りましょう!

乗務員勤務の変行路や超勤整理に関して、運輸部企画課で新潟運輸区兼務で乗務している社員が力を担うことはあるのかを質すと支社側は、年末調整に就いてJEP Sに確認し、

膨大な変行路処理に加え、訓練や実行計画説明会など一般的な超勤入力でも対応できる中、社員を探さずと自分で大変であることを確認しました。

支社に集約された業務は関係しないことを確認

支社側は、研修施設周辺の環境や参集経路に調達環境があるかを考慮するとし、ヘルスアップ研修で食事を研修の一環として、また研修生でランチミーティングを行うなど目的性のある食事は出さず合があるとした。

現行の要員体制維持を求めて団体交渉

申7号 運輸系統における事務職の要員体制に関する緊急申し入れ

新潟地本は3月30日に、申7号・運輸系統における事務職の要員体制に関する緊急申し入れの団体交渉を行いました。

3月16日・17日の2日間にわたり行った申6号団体交渉を通じて明確となった課題の解決がなされないままの施策実施は、全ての関係社員に大きな負担となることから、現行の要員体制維持を求め申し入れていたものです。

施策実施時点での業務量は1.2人分であることが明らか

地本交渉団は、4月1日現場の事務社員のチェック付での事務職社員の異動により負担軽減とまでは無いと把握している中、標準数1を提案され現在、4名の職場であれば、1人分の業務量を4人で行うことになるのか考えを質しました。

支社側は、特情を持つ社員を除けば1人で出来る業務量として標準数を提案したことによりはななく、4月1日以降に順次異動がかかる可能性はあるとの考えを示しました。

申6号の交渉で明らかになった課題のうち整理された業務があるのか質すと支社側は、年末調整に就いてJEP Sに確認し、

半日から1日を要する遠隔地の設備の蛍光灯対応などについて、駅での対応やNTSへの発注が出来ないかを問うと支社側は、系統間の調整やコスト面で課題があるとした上で、現地出勤の扱いなど働き方改革も進める必要があるとしました。

4月1日時点での業務量の積算は1.2人分であることが明らかになりました。

乗務員勤務の変行路や超勤整理に関して、運輸部企画課で新潟運輸区兼務で乗務している社員が力を担うことはあるのかを質すと支社側は、年末調整に就いてJEP Sに確認し、

膨大な変行路処理に加え、訓練や実行計画説明会など一般的な超勤入力でも対応できる中、社員を探さずと自分で大変であることを確認しました。

支社に集約された業務は関係しないことを確認

支社側は、研修施設周辺の環境や参集経路に調達環境があるかを考慮するとし、ヘルスアップ研修で食事を研修の一環として、また研修生でランチミーティングを行うなど目的性のある食事は出さず合があるとした。



食事調達の利便性向上を強く求める

申8号・研修・訓練受講時における食事支給の見直しに関する申し入れ団体交渉

新潟地本は3月30日に、申8号・研修・訓練受講時における食事支給の見直しに関する申し入れの団体交渉を行いました。

研修や訓練時の食事を会社負担としてきた制度について支社側は、平成3年に採用が始まった時にモチベーションを上げようという社内風土からできた制度だと聞いているとしました。

見直しの経緯については、コンビニの普及による食事の調達環境、ウェブ・オンラインでの研修の効果を確認できてきているなどの変化を挙げ、コストダウンに資する要素はあるが、趣旨は調達環境であるとした。

その上で、総合研修センターは泊研修が基本であり、

支社側は、研修施設周辺の環境や参集経路に調達環境があるかを考慮するとし、ヘルスアップ研修で食事を研修の一環として、また研修生でランチミーティングを行うなど目的性のある食事は出さず合があるとした。

事務センター化後の事務手続きの社員周知徹底を確認

法は会社もシツカリ考えているとしました。